

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4492200011		
法人名	医療法人久寿会		
事業所名	グループホームすずらん		
所在地	大分県速見郡日出町大字藤原1691番地1		
自己評価作成日	平成28年11月10日	評価結果市町村受理日	平成29年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_pref_detail_original_index=true&JigvosyoCd=4492200011-00&PrefCd=44&Yendo=2010&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分県大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府巻番館 1F		
訪問調査日	平成28年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の心身の状況を踏まえ、医療と連携し、安心して暮らしていただけるよう心掛けています。また、研修会などを通して、職員一同、支援していただくためのスキルアップに努めています。ご家族や、地域とのつながりを大切にし、社会性が維持できるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

別府湾を見下す高台の住宅地に位置し、日当たりの良いホールの窓からの眺望に、安らぎを感じる施設です。同法人の系列下には病院や介護老人保健施設、小規模多機能施設等があり、医療面や介護面での連携体制が充実しており、利用者、家族の安心に繋がっています。管理者の交替もありましたが、職員と協力し、これまで培ってきたノウハウを継続し、利用者が安心して暮らし続ける支援を目指し、チームワーク力を高めています。利用者の心身の機能低下防止に病院と連携しリハビリに力を入れ、週1回~4回、状態に合わせて訓練を行っています。また、「家族や地域との連携」を理念に地域行事(お接待)の参加やホームの夏祭りに地域の方々を招待し交流を図る中で、地域貢献(認知症啓発活動や相談会等)を通し、施設が地域福祉の拠点となるよう努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員及び外来者に見やすい場所に理念の掲示をしている。また、ミーティングの際に基本理念の読み合わせをしている。	地域密着型サービスの施設として理念(4項目)が作成され、ホールの目につくところに掲示し、ミーティング時に全員で唱和し共有及び理念の認識に努めています。利用者の能力を引き出し、役割を持ち生き甲斐が生まれるよう支援に繋がっています。	理念を柱とした支援について、全職員間の周知、共有を図り、実践に繋げる努力をしています。職員個々で理念に沿った個人目標を立て実践することでモチベーションの確保やサービスの向上に結び付けることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	グループホームでの行事の時に、地域のボランティアの方に慰問に来ていただいている。地域運営推進会議や法人の盆踊りなど、地域の方との交流を図っている。	地域との交流を理念として掲げており、地元の行事(お接待)の参加、ご近所との交流(散歩時の挨拶や会話)等積極的に参加していますが、身体的な低下や高齢化により、地域に出かけることが困難な状況です。事業所の行事(夏祭り)に地域の方の多くの参加が地域との交流となっています。	運営推進会議等で地域のニーズを把握し、グループホームの理解や認知症の相談支援等地域貢献に努められることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修に参加し、学んだことを活かし、運営推進会議の際、認知症やグループホームがどういった施設であるか等の説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・自治会長・公民館長・利用者の家族等、地域の関係者に参加していただき、施設での取り組みなどを報告し、意見やアドバイスを戴いている。	行政職員、地域関係者、家族等が出席し2ヶ月に一度開催されています。事業所及び利用者の活動状況や施設行事(夏祭り)の報告などの案内を行っており、運営推進会議が地域との情報交換の場となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営の手続きや困難なケースについてはその都度相談を行っている。	運営に関しての必要事項や情報はメールや電話のやり取りで行い、役場を訪問した時は必ず担当職員に直接会っての情報交換を心掛けています。行政主催の地域ネットワーク会議や認知症についての講習会にも積極的に参加し、連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を行い、身体拘束となるような行為を理解し、利用者の尊厳を守るように努めている。	管理者と職員は身体拘束の内容とその弊害を認識し身体拘束をしないケアの実践に取り組めるよう、研修や勉強会を開催しています。特に精神的虐待(言葉かけ)に注意しミーティング等で振り返り、利用者が安心して、穏やかに過ごせるよう支援に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時などに全身観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	随時、ご家族や関係者と制度について必要性を話し合いながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は項目の確認を行い、理解・納得ができるように説明し、その後の質問などにもきちんと対応している。料金改定時にはご家族に文書を送付し、お知らせしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族とは面会時や電話で意見や要望について話し、意見や要望を基に運営や支援の改善を行っている。また運営推進会議への参加をお願いし、外部者へ意見が述べられる機会を設けている。	面会時や電話で利用者の状況を伝えるとともに、意見を聞くようにしていますが、利用者に対する要望が主で、運営に反映させる意見が出ないのが現状です。事業所の行事(運動会)に家族の半数以上の参加があり、行事後「家族の懇談会」とし忌憚のない意見交換が出来る機会を作る予定です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や要望は日常の業務の際に話しており、ミーティングの際に再度話し合いを行っている。	職員は毎日のミーティングで提案や意見交換を行い、情報の共有及び提案事項の改善に繋がっています。年2回の自己評価シートを使用しての個人面談等、管理者は意見の言いやすい雰囲気作りを心掛けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を定期的に振り返り、自己評価シートを年2回利用しながら努力や目標の達成度を確認している。勤務の希望に関しては、柔軟に対応できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加や、内部での勉強会を行っている。研修参加者は、ミーティング時、研修報告を行っている。また、危険予知訓練も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議の参加や、外部研修を通して交流の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者とのコミュニケーションを大切にし、意見や要望を言いやすい関係づくりを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者・家族との信頼関係を築き、思いや要望を言いやすい関係づくりを心掛けている。また、要望があった際は、速やかに対応するよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時に、今まで関わってきた関係事業所から情報提供をいただき、本人と家族等の慶弔の中での確認を行い、当事業所での支援方法の決定につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	回想法を利用し、利用者へ過去の生活の知恵や経験を教えてもらい、お互いに支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望を大事に、応えられるように検討し、家族と職員が同じ意向で利用者を支えていく関係作りを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来やすい雰囲気作りを心掛けている。また、面会に来られた際は、近況報告を行っている。外出希望には柔軟に対応している。	日頃の会話の中や、入所時に家族から生活歴や馴染みの人、場所を聴き取り、把握するよう努めています。家族の協力で自宅や行き付けの美容院に通ったり、会話の中で、出身地区を話題にする等馴染みの関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関わりに側面的に支援し、孤立しないように心掛けている。レクリエーションを通し、利用者同士の関わりが円滑になるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院後の受け入れ先が不安なご家族もいるので、病院と連携を取りながら退院後もグループホームへ戻れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に関して、希望や意見があった時は都度申し送りに記録し、全員で共有している。	契約時に利用者や家族から生活歴や家族構成などの情報や意向等を聞き、記録に残し職員間で共有しています。利用開始後は日々の会話や表情等から知り得たことを申し送りノートに記入し、カンファレンスで本人本位に話し合い意向の把握に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報やアセスメントシートなどを利用し、把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する方等の現状の把握に努めている	経過記録表や業務日誌、申し送りに記録し、把握に努めている。受診を行った際は、受診記録、申し送りに記録し、全員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一回個別カンファレンスを行っており、現状や問題などを話し合い、介護計画書の見直しを行っている。	利用者や家族の意向、日々の暮らしの中で把握した情報をもとに介護計画を作成しています。モニタリングを行い、3ヶ月毎の見直しを図る中で、家族の意見や必要に応じて医療情報を反映させ、現状に即した介護計画となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作成しており、日々の状態の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向を聴き、できる限り対応できるように努めている。支援方法で変更があった場合は申し送りに記録し、全員で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族との協働が主であるが、本人の力が発揮できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を基に、協力病院やそれ以外の専門医と連携を取りながら、適切な医療が受けられるように支援している。	入所時、利用者や家族の意向を大切に、希望するかかりつけ医や専門医を受診できるよう説明しています。家族の同行受診が困難な場合は、職員が同行して結果を家族、全職員に報告して、情報を共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的な観察の中で、変化を発見した場合は病院に報告・相談を行い、指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はアセスメントを情報提供し、その他日常においても、病院関係者と連絡を取り、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行っている。必要に応じて重度化、終末期における対応指針を基に、本人や家族への説明を行っている。	重度化や終末期については、入所時 本人・家族に説明を行っています。本人・家族の意向をふまえ法人の医療機関と連携をとりながら安心して納得した最期を迎えられるよう支援が行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時には対応が出来るよう緊急時マニュアルを掲示している。また、管理者へ報告し、指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事前に避難誘導のシミュレーションを行い、夜間の想定も取り入れながら、年2回の避難訓練を実施している。運営推進会議の際にも、地域の方に協力をお願いしている。	消防署立ち合いのもと、年2回の避難訓練が行われています。施設が2階、3階という立地で、階段を毛布を使って搬送する独自の訓練にも取り組まれています。非常用の食料・備品も施設全体で準備されています。	施設の形状を考慮した避難訓練には、消防署に避難の方法を具体的に指導して頂き、地域の方々とは、日頃から相互理解を深め協力体制を整えていく事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護に関する勉強会を年1回行っている。また、引継ぎ等、他の方に聞こえない場所で行うように心掛けている。排泄介助やおむつ交換の際は、プライバシーを損ねないように扉を閉め、声掛けに注意している。	職員一人ひとりが利用者に尊敬の念を持ち、言葉遣いや言葉かけに配慮しています。必要な時には管理者や職員同士で注意・助言しあい、個人情報保護に留意しています。	利用者に対する言葉遣いは、どう受け止められているか、プライドは守られているか振り返ってみる事も大事かと思われます。人格を尊重した言葉遣いを心がけ、更により良い支援が行われる事を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で会話の内容や表現に注意しながら希望を把握するように努めている。また、1対1で話す時間を作り、思いを尋ねたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちを大事にし、できる限り自宅での生活スタイルに近いような対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも清潔な服装、好みの服が着用できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備や配膳、片付け等、利用者のできる範囲で協力していただき、日々の生活の中で、やりがいや役割を見いだせるよう努めている。	法人内の栄養士により献立が作られ、施設で職員が交代で調理をしています。利用者と職員が下準備をしながら、会話の中で嗜好品を伺っています。家族と共に摂る行事食も楽しみにされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事形態で提供している。また、食事量や、内容の把握に努め、栄養のバランスが取れた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアの援助を行っている。また、残存機能に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握し、トイレでの排泄が行えるように声掛けや誘導を行っている。また尿量や睡眠状態を把握し、使用するおむつの種類の検討を図っている。	排泄チェック表により一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレでの排泄を支援しています。夜間もナースコールや1時間おきのラウンドでオムツだけでなくトイレ誘導が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションにて体を動かす運動を取り入れている。また、主治医と連携し、薬で排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や、体調を確認しながら、支援を行っている。	一人ひとりの入浴習慣や、その日の希望を伺い個別の入浴支援が行われています。入浴中の会話を通してくつろぎ、安心して入浴できるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも安心して静養ができるように、ソファーを使用し、くつろいでいただいている。体調を見ながら臥床の声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より、内服薬の情報提供をもらい、個人ファイルに貼付し、常に職員が薬の確認ができるようにしている。また、薬のチェック表を作成し、飲み忘れや誤薬がないか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリに取り組んでいただき、やりがいや役割を見いだせるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望に合わせて職員や家族が同行し、買い物へ出かけたりしている。また、年間の行事の中でも、身体の状態に応じてコースを変えるなど外出の機会を設けている。	季節の行事での外出や利用者の希望される場所、施設周辺の散歩と外気に触れる機会を設け気分転換を図っています。家族の協力を得て外出が楽しみになるよう支援を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持っている場合については、ご本人と家族、職員が十分に話し合い、少額の金額を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される利用者様には、いつでも電話ができるように支援している。また携帯電話の持ち込みも可能としている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるような物を共有の空間に設置し、リラックスできるような雰囲気作りに努めている。	明るい日差しが差し込む中、対面キッチンから調理の音や匂いで生活感が伺えます。家庭的空間の中、ソファでくつろぎながら会話を楽しんでいます。共同制作の、季節の壁飾りや行事の様子が飾られ安心して居心地よく過ごせるよう取り組まれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで、気の合う仲間といつでもお話できるように座席を配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、ご本人が使い慣れたものを持ち込み、安心して過ごせるような環境作りに努めている。	使い慣れた品物の持ち込みをされ、家族の写真や飾り、思い出の品を置いて、居心地よく過ごせるよう環境作りをされています。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の部屋がわかるように、花や鳥の名前を付け、ご本人の名前も掲示している。また、自分の部屋と認識できるように、人形などを下げてわかりやすくしている。		